

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	学校名 : 千葉市立幸町小学校 対象学年 : 6学年 クラス(人数): 2組(59人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育科・ <u>保健体育科</u>) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。
5 取組内容	○道すじ 6学年の体育「ソフトバレーボール」の学習後に、3時間追加して「シットイングバレーボール」に取り組んだ。 ○手立て 【用 具】ビニール製ソフトバレーボール 30g・50g・100g 【ルール】5人对5人のゲーム 3回以内に相手コートに返球 【場】コートのおおきさ(片面)縦4m×横4m70cm ネットのおおきさ 105cm
6 主な成果	○「自分には関係ないもの」と感じていたパラスポーツへの興味・関心が高まった。 ○パラスポーツを競技しているアスリートの洗練された動きや力強さを感じていた。 ○パラスポーツは、「障害のある人だけが行うものではなく、1つのスポーツである」という気持ちに変わっていった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ルールや場を工夫し、子供たちがシットイングバレーボールの「ゲーム」まで楽しめるようにした。</p> <p>○ゲームでは、ラリーを楽しみながら得点が入るようなコートの大きさとネットの高さを設定した。</p> <p>○学習前と学習後に、子供たちのパラスポーツについての考えを「記述式」で書かせるようにして、変容がわかるようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ソフトバレーボールの学習をしていない状態だと、ゲームを楽しむようにすることは難しいと考える。</p> <p>○作戦を深めていくというよりは、「知る・体験する・楽しむ」というような内容で3時間程度の実施で十分と考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○本校では、6年生のソフトバレーボールに3時間追加でシットイングバレーボールを行うという内容でよいと考えている。</p>
<p>10 その他</p>	<p>○指導者側が「なぜ今この学習を行うのか」ということを十分に理解したうえで、実践していく必要があると感じている。</p>